



1. 低密度下におけるニホンジカの行動把握調査

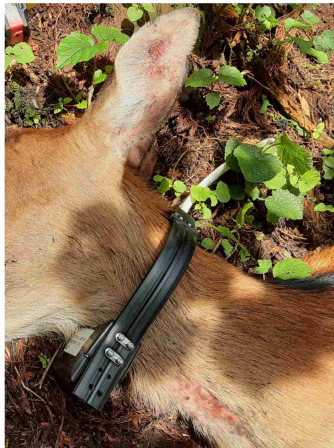
近年、ニホンジカ（以下「シカ」という）の増加が懸念されている赤谷の森ですが、冬季は、積雪量が多いため、シカが生きていくには厳しい環境です。多雪地域に生息するシカは、冬季に積雪の少ない越冬地へ季節移動することが知られており、赤谷の森のシカも同様であると考えられています。赤谷プロジェクトでは、生息数の低密度下におけるシカの捕獲試験に取り組んできました。越冬地やその移動経路は、これまで明らかになっておらず、今後の個体数管理に向けて、そうした情報が求められていました。

そこで2021年は、これまでの捕獲試験に加えて、新たにシカの行動把握調査を行いました。これは、現地で捕獲したシカに、GPSにより位置情報が分かる首輪型発信器（写真1）を取り付けて放獣し、その後の行動を調べるものです。調査対象とするのは、メスの成獣です。幼獣は放獣後に生存している確率が低くなりますし、オスは活動範囲が不規則なため適しません。6月に実施した捕獲試験では、箱罠でメス成獣を捕まえることができた（写真2）ので、その個体を対象に調査を実施することにしました。箱罠というのもポイントで、脚をくくるタイプの罠と比べ、シカが傷つくことが少ないため、放獣後の死亡リスクを減らすことができます。首輪型発信器を取り付ける際は、シカをいったん麻酔薬で眠らせ、装着後には覚醒薬を投与して、完全に目覚めたことを確認してから放獣しました。

首輪型発信器は2時間に1回、人工衛星から位置情報を測位します。しかし、そのままでは、測位データが首輪に蓄積されたままなので、定期的にそのデータを取得する必要があります。首輪からビーコン（電波）が出ているので、それをたよりに専用のアンテナとアプリケーションを使ってシカの居場所を特定し、データをダウンロードします（写真3）。地形などの条件によりますが、約2 km以内までシカに近づく必要があります。放獣して直ぐは、シカがどこにいったのか分からず、居場所を特定するのに苦労しました。一度でも居場所が分かると、季節移動以外では基本的にその場所から大きく移動しないため、その後のデータ取得は簡単に行うことができました。

シカを捕獲した場所は、赤谷の森の東に位置する小出俣（おいずまた）と呼ばれるところで、調査開始（6月25日）以降は、隣接する十二社ノ峰という山を主な活動場所としていることが分かりました。それから約半年間は、そこで活動していましたが、12月23日の午前6時頃に移動を開始しました。赤谷越を渡り、吾妻耶山を經由して、午後6時頃には南東方向に直線距離で約7 km離れた大峰山の麓へ行きました（図）。12月23日以降、みなかみ町では降雪量が一気に増加しています。このことから、本格的な降雪期が始まるタイミングで、移動したことが分かります。その後は、現在（3月18日現在）まで大きな移動はありません。日中は山にいて、夕方から朝方にかけては餌を食べに近くの集落まで出てきています。初めはさらに移動すると思いましたが、2月に入っても同じ場所に留まっていることをみると、そこが越冬地と考えてよいようです。面白いことに、元いた十二社ノ峰も越冬地の大峰山も、一部が鳥獣保護区に指定されていることです。シカの活動は、鳥獣保護区と狩猟可能な場所との境あたりで、鳥獣保護区をうまく利用していることが分かりました。

一方、同じ赤谷の森に住むシカでも、生息場所やその個体が属している群れによって、越冬場所が異なる可能性があります。今後は、この調査を継続するとともに、調査するシカの頭数を増やして、さらなる季節移動の解明に努めたいと思います。



▲ 写真1_シカに取り付けたGPS首輪型発信器



▲ 写真2_箱罠で捕獲されたメスジカの成獣



▲ 写真3_専用アンテナとアプリケーションによるデータのダウンロード



▲ 図_シカの移動軌跡 (R3.6.25~R4.2.1)

2. 令和3年度赤谷プロジェクトーみなかみ町連携会議（令和4年2月17日開催）

令和元年度から始まったみなかみ町連携会議は、今年で3回目を迎えました。残念ながら今回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、関係者一同揃っての対面形式ではできませんでしたが、プロジェクトを担う3者の代表（赤谷プロジェクト地域協議会：泉・河合、日本自然保護協会：武田、当センター：佐藤）が役場に伺いました。赤谷プロジェクトの概要、今年度行ったニホンジカの誘引捕獲、森林環境教育、桐植栽のための福島県への現地視察などについて町の三役へ報告しました。その後、和やかな雰囲気の中、イヌワシの狩場創出試験で伐採された木材の活用や町農林課とニホンジカ捕獲に向けて打合せを予定していることなどを共有しました。鬼頭春二町長からは「赤谷プロジェクトは立ち上げから十数年経っているが、今ではしっかりと地域に根付いており、地元の多くの人を知っている。町もユネスコエコパークやSDGsを掲げており、今後も協力してやっていきたい」とのお言葉をいただきました。宮崎育雄副町長、田村義和教育長からもお言葉をいただきました。これからも毎年この会議を継続し、みなかみ町との連携を更に深めていきたいと考えています。



▲ 赤谷プロジェクトの取組について報告



▲ 最後に集合写真を撮りました

3. 令和3年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会

令和4年2月16～17日に行われた森林・林業技術等交流発表会において、当センターからは、スライド発表「センサーカメラによる哺乳類の長期モニタリング調査」と、ポスター発表「ニホンジカの低密度管理に向けて（第3報）」を行いました。このうち、スライド発表では「特別賞」を受賞することができました（発表者：伊藤、共同発表者：（公財）日本自然保護協会 中野）。赤谷プロジェクトの関係者からは「長年に渡る先生方、関係者の積み重ねの賜物で、赤谷プロジェクトらしい成果のひとつになった。モニタリングという基礎調査に光が当たったことは、本当にうれしく感じる」、「地道な取組が、評価されてとてもうれしい」とのお言葉を頂いております。長きにわたる関係者のご努力のおかげです。ありがとうございました。